

もしもの時は・・・

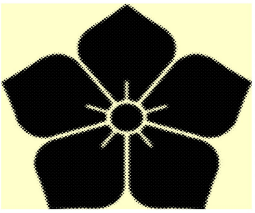
大切なご家族を亡くされた時は、**霊園管理事務所へ、まずご一報ください。**葬儀社のお手配や、名義変更のことなど、必要な事をお知らせいたします。浦和霊園協力葬儀社は、左記の葬儀社です。ご葬儀の事前相談など、お気軽にご連絡ください。
(株)ニチリヨク
【愛彩花】
☎ 0120-678-000

霊園でのご法事について

管理事務所から各ご家庭に、回忌法要のご案内をさせていただいております。**大松院では元々の宗派にかかわらず、お勤めさせていただいております。**ご法事をする、しないに関わらず、何かお困りの事、塔婆だけ建立したい、など、お気軽にお問い合わせください。また、大切なご家族を亡くされ、供養していただく寺院にお困りの時なども遠慮なくご相談ください。お問い合わせは霊園管理事務所まで。

仏教勉強会について

毎月第三日曜日に行っておりますが、暮れになりました。仏教勉強会ですが、暮れになり新型コロナウイルス感染症が拡大してきたことを考慮しまして、**しばらくの間、お休みとさせていただきます。**状況が落ち着きましたら、再開したいと存じます。何卒、ご理解のほどよろしくお願いたします。
※問い合わせ 大松院 048-882-9205



浦和霊園だより

VOL. 23

令和2年12月号
TEL 048-812-1121
FAX 048-878-7272
編集者 三浦清志
副住職

（一）挨拶



大松院住職 片岡智鶴

皆様 お変わりなくお過ごしでしょうか？早いもので令和二年も終わろうとしております。今年一年を振り返ってみますと、まず思い浮かぶのは、「新型コロナウイルス感染症」のことです。年明けから、中国で流行りはじめ、あつという間に世界中に広まってしまいました。当初は、こんなに広まるとは誰も思わなかったことでしたが、これにより世の中が全く違う世界になってしまったかのように感じられました。手洗い、マスク着用が徹底的に指導され、公共交通機関での移動も憚られました。仕事もリモートになり、人の集まることが出来なくなりました。家庭生活も今までのようには暮らせなくなり、家にいる時間が増えたことで、いろいろな支障も出てきたように

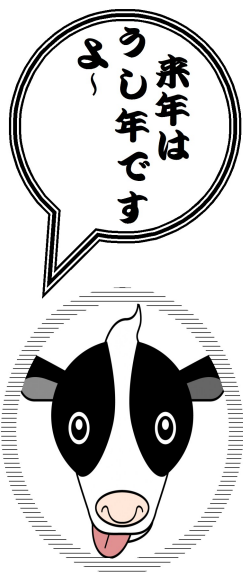
感じます。しかし、私たちは生きていかななくてはなりません。いくら新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっても、ご先祖様から頂いた、この「命」を簡単に終わらせるわけにはいきません。私たちは、仏様の世界（真言宗では「阿字の古里」という言い方をします）から、ご縁があって、一人の人間として生まれてきました。生まれてきた以上は、必ずその方の人生には意味があり、なすべきことがあると思っています。だからこそ、感染症がありながら、その中で生きていく術を身につけなくてはなりません。今、まさに思うのは、こういう時だからこそ、ご先祖さまに自身と家族の健康を祈り、社会の安寧を祈ることではないでしょうか？人間は考えた方向に進み、考えたように人生を形作っていくものだと思います。私たち一人一人が、感染症によって悲観的な事を考え続けた場合、未来は大変暗いものになるかもしれません。一方、必ずこの感染症のことを乗り越え、新しく素晴らしい未来を切り開いていくことが出来ると思えば、道は開けていくのではないでしょう

来年の予定

○ 節分祭	1月31日 (日)
○ 春彼岸	3月17日 (水)
○ 合同慰霊祭	7月23日 (火)
○ 7月13日 (火)	
○ 8月13日 (火)	
○ 8月15日 (日)	
○ 8月15日 (日)	
○ 秋彼岸	9月20日 (日)

令和3年回忌表

1周忌	令和2年
3回忌	平成31年 (令和元年)
7回忌	平成27年
13回忌	平成21年
17回忌	平成17年
23回忌	平成11年
27回忌	平成7年
33回忌	平成元年
50回忌	昭和47年



か？神仏は、私たちの心の状態に必ず応えてくださいます。大松院は、観音様のお寺です。観音様は、広く私たちの心の声を観て下さり、救いの手を差し伸べてくださいます。それは、その方に合った方法で示して下さることでしょう。霊園でのご先祖様の供養を通じ、観音様のご加護をいただいて、皆様のこれからの日々が、心豊かに安らかに過ごしていただけることを、心からご祈念申し上げます。霊園の諸行事も開催が難しい面がございますが、皆様とのつながりを大切に、できる限り継続してまいりたいと存じます。これからもどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

暮らしの中の仏教用語

「三密」(さんみつ)

今年、新型コロナウイルスに翻弄された年でしたが、その中でよく耳にしたのがこの言葉です。密閉・密集・密接に気を付けましょう！ということですが、実は仏教用語に元々あったのが、この三密です。私たちの体・心・言葉のはたらきは、本質的には仏さまのそれと同じものであるから、手を合わせ、ご真言を唱え、心穏やかにすることで、仏様と一体になることを密教では大切にしています。



【お盆合同慰霊祭】 & 【送り火の夕べ】ご報告

【合同慰霊祭】

去る7月13日・8月13日に、合同慰霊祭を勤修しました。新型コロナウイルス感染症を考慮して、参列者なしということにさせていただきました。位牌の代わりに、「回向之証」（写真参照のこと）をご用意してのご供養となりました。皆様には、お届けが遅くなったり、手違いがあったり、こちらも初めてのことと、いろいろとご迷惑をおかけしました。形は変わっても、一年に一度、亡くされた大切なご家族やご先祖様が家にお戻りになることには、変わりありません。皆さまのご先祖様を大切に思う思いが、今後のご家庭の繁栄、幸せにつながると思えます。ウイルスに負けることなく、ご供養を続けていきたいと思えます。



合同慰霊祭法要と回向之証



【送り火の夕べ】

毎年恒例となっている送り火の夕べ。今年は、やはり感染症を考慮して、墓内地内、寶頭龍馬菩薩様の御宝前にて、皆様の灯籠をお飾りして、送り火のご供養を致しました。灯籠をお渡しして、各々墓参を済ませた後、駐車場にてお焚き上げとなりました。今回は、後日、写真をみてびっくり。皆様の頭上にあつた火は、とても神秘的な形をしていて、住職や副住職の周りも紫色の光で包まれており、ご先祖様があちらの世にお帰りになるときに、お印を残されたのかと思われました。きつと、感染症などに負けず、元気で頑張ってくれよ！とのメッセージかと、大変感嘆致しました。来年は、例年通りお勤めできることをお祈りして、ご報告いたします



『共に祈ろう』の呼びかけ

前号では、「延命十句観音経」をご紹介します。まだまだ新型コロナウイルス感染症は、止む気配を見せず、日常生活に大いに支障をきたしています。今一度、皆様と共に病に負けず、健やかで過ごせますように、「却温神咒文」というお経を紹介したいと思います。

【却温神咒文】

南無仏陀耶 南無達磨耶
南無僧伽耶 南無十方諸仏
南無諸菩薩魔訶薩 南無諸聖僧
南無大師遍照金剛（以上を三回繰返す）

今、我れ弟子○○（○には自分やご家族のお名前を入れる）、仏所説の神咒に帰依したてまつる。即ち其の經法に従い、是の如く神名を我れ今、当に誦せん。

沙羅法 沙羅法 沙羅法
無多難鬼 阿佉尼鬼 尼佉尸鬼
阿佉那鬼 波羅尼鬼 阿毘羅鬼
波提梨鬼 疾去 疾去
莫得久住ソワカ

（右 太字の部分を三回繰返す）

こちらの經典は、香川県 弘法大師生誕の地 善通寺に伝わる、疫病退散のお経です。お経のいわれには、次のように出てきます。『お釈迦様の時代、疫病が猛威を振るったことがあります。弟子の阿難は、お釈迦様に、「どうか疫病に苦しむ方たちをお導き下さい。」とお願ひしました。すると、お釈迦様は「七つの鬼神があつて、彼らがいとも疫病のもとになっている毒をまき散らしている。病気に苦しむ人たちが、その鬼神の名前を知り、繰り返し唱えるならば、鬼神たちは人々を害することが出来



なくなりませす。次のように唱えなさい。立ち去れ！立ち去れ！立ち去れ！無多難鬼よ！阿佉尼鬼よ！尼佉尸鬼よ！阿佉那鬼よ！波羅尼鬼よ！阿毘羅鬼よ！波提梨鬼よ！疾く去れ！疾く去れ！久しくとどまることなく散り去れ！このように唱えれば、毒は消滅し、病は速く除かれ癒されます。』私たちが一人一人が祈ることで、きつと状況が良いほうへ向かっていくものと信じております。早く日常が穏やかで、安心して暮らせる日が来るように、皆さま一緒に祈りしましょう。

霊園節分祭開催について

毎年恒例となっておりました節分祭ですが、昨今の新型コロナウイルス感染症の事を考慮し、令和3年節分祭の豆まきは、参加者を募らず、大松院の関係者のみで行うこととしました。

皆さまと一緒に豆まきを行うことはできませんが、各ご家庭で豆まきをしていただけるように、ご用意いたして

おります。このお豆で新年が心安らかに、健康で、一日も早く感染症が収まるように、皆さまのお家で声高らかに豆まきを行っていただきたいと存じます。また、今回は特別に、大松院の所属する真言宗智山派から疫病退散のお守りが授与されましたので、お申し込み頂いたご家庭には、各一体ずつお授けさせていただきます。

◆日時 令和3年1月31日（日）
午前10時～

◆当日、皆様は参加できません

◆お豆の受取 1月31日、午後2時～
管理事務所まで、お渡しいたします。

◆申込金 一世帯あたり 金二千円
（豆と一緒にご回向したお守りが授与されます）

◆申込先 管理事務所 ☎048-812-1121
（ご都合のつかない方は、後日、取りに来ていただいても結構です。）



今回 特別に
授与される疫病退散
のお守り